

運輸安全委員会業務改善有識者会議（第3回） 議事概要

1. 日時

平成24年8月1日（水） 14:00～15:40

2. 場所

運輸安全委員会委員会室

3. 出席者

有識者：安部座長、佐藤委員、柳田委員

運輸安全委員会：後藤委員長、横山委員、松本委員、遠藤委員、大須賀事務局長、玉木審議官、松本総務課長、工藤首席航空事故調査官、中山首席鉄道事故調査官、小須田首席船舶事故調査官

4. 議題

- (1) 業務改善アクションプランの実施状況について
- (2) 新たな検討課題
- (3) 有識者からのコメント
- (4) その他

5. 概要

冒頭、後藤委員長から、業務改善アクションプランの実施状況を報告するとともに、更なる業務改善に資するための新たな検討課題について相談し、助言を頂きたいこと、アクションプランの着実な実施により、運輸の安全性の向上に貢献してまいりたいこと等の挨拶があった。

(1) 業務改善アクションプランの実施状況について

事務局担当者より、業務改善アクションプランの実施状況のうち、主要な5項目（〔分かりやすい報告書の作成〕、〔事故等の再発防止に資する情報発信のあり方（フォローアップの可視化）〕、〔ニュースレターほか情報ツールの内容の充実、再検討〕、〔被害者への情報提供、被害者等からのご意見への適切な対応〕〔地方事務所の強化〕）について説明を行い、その他の項目を合わせて報告したところ、有識者から、以下のような意見があった。（資料1-1、資料1-2、資料1-3）

- ・フローチャート、図表、脚注などが掲載された分かりやすい報告書の作成について、成果が現れている。
- ・委員長による定期的な記者会見は、非常にいい取組みである。

- ・適切にご努力頂いていると思うので、この方向で引き続き業務改善に取り組むようお願いしたい。

(2) 新たな検討課題

事務局担当者より、今回新たに検討することとした2項目（〔報告書における再発防止策の記載方法〕、〔海外向け情報発信・海外の事故調査情報等の収集及び当該情報の国内向け情報発信〕）について説明を行ったところ、有識者から、以下のような意見があった。（資料2）

- ・3章の分析から導かれてくる再発防止策を、改めて第4章の原因の部分と合わせて第5章の再発防止策にまとめるということについて、新しい報告書の記載方法として期待したい。
- ・報告書の構成が画期的だと思うのは、5章の再発防止策が、すでに実施済みのものところから必要なものに分けて、しかも事業者と行政とにそれぞれに分けて書く、これは明快で分かりやすいし、今後のフォローアップには是非とも重要。
- ・ある事故を契機に講じられた措置というのは、実施後であっても教訓を踏まえた実施策なので、このように記載されるというのは非常にいいことだと思う。ある事故の教訓が社会にどう生きたかが明確になるので、報告書の作成の仕方の大きな改善になるのではないかと。
- ・新しい斬新なスタイルで、日本型の報告書のひな形となるものであることを率直に評価したいと思う。是非この方向で進めて欲しい。
- ・鉄道では、ICAOとかIMOのような国際的な仕組みはないが、レールの上を高速の列車が走っていて、それに対する安全対策を行うという点では、基本的には共通点が大きいという観点から、世界の鉄道の安全のために鉄道分野での情報発信を強化されることも期待している。
- ・海外の鉄道関係者や事故調査関係者は、日本の鉄道の技術と安全性の水準に大変期待しているので、日本での経験なりが海外へ発出されていくということは大変いいことではないかと思う。是非この点についてもご努力頂きたい。
- ・新たな検討課題として挙げて頂いている事項について、いずれも適切な取組みであり、時宜を得た適切な試みである。是非この方向で進めて頂きたい。

(3) 有識者からのコメント

その他、下記のように有識者のコメントがあった。

- ・ 一件一件の事故を深く調査するため、出来るだけ早く現場に駆けつけて調査を行うのも大事だが、後から類似の事故調査を行う手法も検討する必要があるのではないか。例えば、踏切事故、駅のホームからの転落事故などを、疫学的な観点から調査する仕組みがあってもいいのではないか。
- ・ 事故調査の本質に関わる業務改善を行った方がよい。例えばITをうまく使えば何か出来ないか。調査官の育成は、若いうちからどのように育てていくかであり、調査官育成も業務改善に繋がるのではないか。

(4) その他

事務局より、本年度の有識者会議の予定を説明し、有識者からの了承を得られた。